

# 週間市場レポート

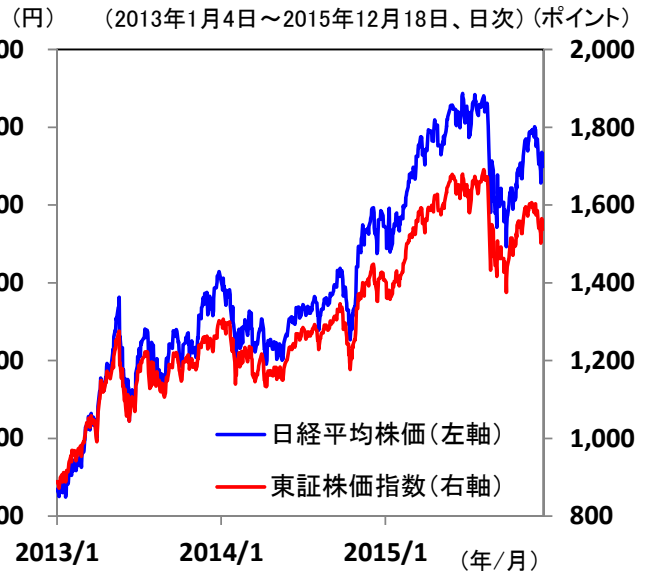
(2015年12月14日～18日)

## (1) 日本の株式・債券市場

### 株式市場の動き

■先週の日本株式市場(日経平均株価)は、値幅が大きな展開となりました。15～16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)を前に買いが手控えられる中、円高への警戒感や手じまいとみられる売りに押され、週初2日で約664円の下落となりました。その後は、16日(水)に前日比約484円高、17日(木)はFOMCでの約9年半ぶりの利上げ決定を受けた米株高や円安などから前日比約303円高となりました。18日(金)は、日銀の追加緩和策の解釈を巡って株価が上下に約886円乱高下する展開となりました。(週末引け値:18,986.80円)

■週間では、日経平均株価は1.27%の下落、東証株価指数は0.80%の下落でした。



出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

### 債券市場の動き

■先週の日本債券市場(10年国債)は、週前半はFOMCを前に商いが薄い中、日銀の買いオペなどや良好な需給への意識などから買われ、金利は低下傾向となりました。その後は高値警戒感から一旦は売られたものの、日銀の買入れもあって堅調に推移しました。18日(金)は、日銀が金融政策決定会合で、金融緩和政策の補完措置として買い入れ国債の平均残存期間を7～12年に延長したことで買われ、長期債を中心に上昇(金利低下)しました。(週末引け値:0.270%)

■週間では、10年国債金利は0.052%の低下でした。

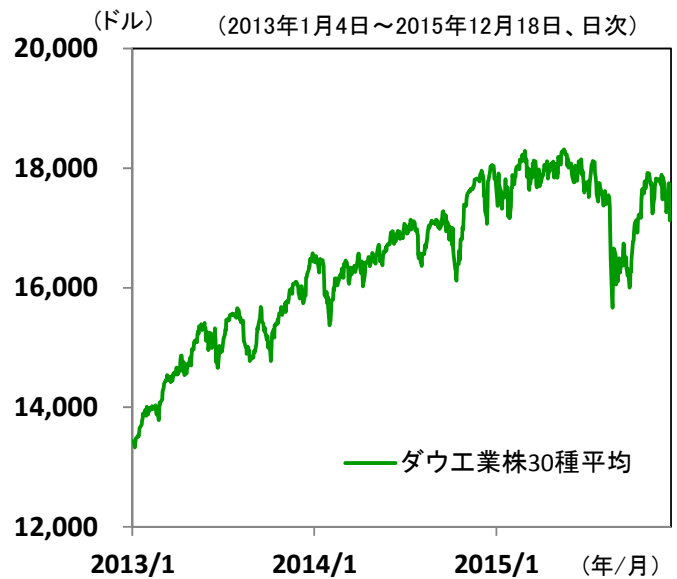


出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

■先週の米国株式市場(NYダウ)は、週前半は原油価格の反発や米連邦公開市場委員会(FOMC)を前にした買戻しとみられる動きなどから上昇しました。一方で、欧州株安や一部のハイイールド債への懸念などを受けた売りが上値を抑えました。16日(水)には、FOMCで利上げが決定され、米景気回復や今後の利上げのペースが緩やかなものになるとの見方などが広がって買いが優勢となりました。週末にかけては、ドル高傾向による米企業業績への影響や原油安による世界景気への影響への懸念が強まり、17・18日(木・金)の2日間で約620ドルの下落となりました。(週末引け値: 17,128.55ドル)



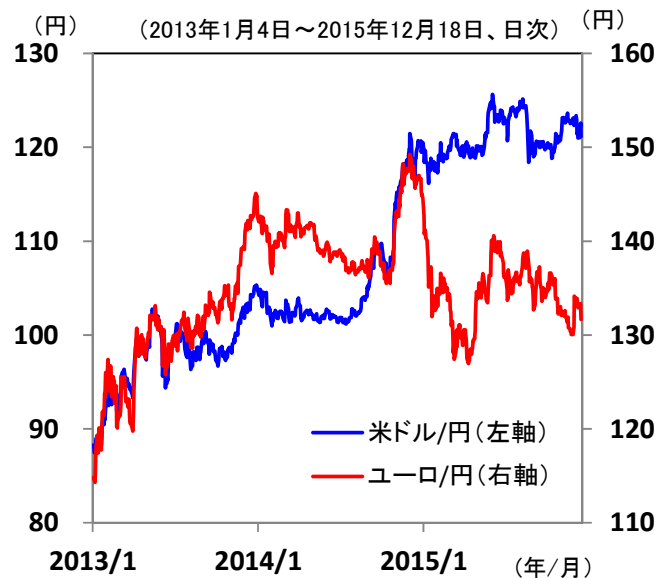
出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

■週間ではNYダウは0.79%の下落となりました。

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

■先週の米ドル/円相場は、14日(月)は原油価格の先行き不透明感や一部のハイイールド債への懸念からドル売り円買いが強まり、一時120円前半まで円高が進みました。しかし、その後は、16日(水)のFOMCで米利上げ決定されたこともあって、17(木)には一時122円80銭までドル高円安が進みました。18日(金)は、資源価格の下落などから世界の景気への懸念が広がり、ドル売り円買いが優勢となりました。(週末引け値: 121円15銭~25銭)



出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

■週間では米ドル/円は0.12%の円安、ユーロ/円は0.95%の円高となりました。